**１－１「学者の落としもの」**

・初期証拠カード「落とした時計」に対して

その他　「路地裏のことなら靴磨きが知っている。彼に聞くといいよ」

・アイテムカード「学者のものらしき時計」に対して

その他　「早く学者さんに届けてあげな」

**１－２「家宝の剣」**

・初期証拠カード「家宝の剣」に対して

他「以前に新聞で見たというなら、記者に聞いてみるといいんじゃないかな」

・証拠カード「商人に借りた」に対して

他「商人に聞いてみるべきだろう」

**１－３「料理のレシピ」**

・初期証拠カード　「自作レシピ」に対して

マスター「この料理はつくるのが難しいんだ。特別な材料がいるからね。はい、これが正しいレシピだ。意地っ張りな貴族様に持っていってやるといい。」

**証拠カード　「プロのレシピと材料」を渡してください。**

・「プロのレシピと材料」に対して

他「貴族様の所に行って確かめるといい」

・「足りなかった材料」に対して

他「貴族様の所に行って確かめるといい」

**２－１　狼男**

・初期ハンドアウト「狼男のうわさ」に対して

マスター「俺は夜、店にいるもんでね、噂しか知らないんだ。すまん」

**証拠カード「銀色の子犬」を渡す**

・「目撃情報」に対して

他「そ－なのかー」

・「銀色の子犬」に対して

他「そーなのかー」

・証拠カード「目撃情報」「銀色の子犬」に対して

他「なら、記者に直接聞いてみればいいのでは？」

**２－２「恋文」**

・初期証拠カード「恋文」に対して

マスター「何も知らないぞ(焦りつつ)」

・証拠カード「恋文の出てくる小説」について

マスター「確かに前にそんな小説を読んだが、なにか？(焦りながら)」

・証拠カード「マスターの冗談」について

マスター「全く、商人には口止めをしておいたのに……そうです私があの恋文を書き、貴族さんに渡しましたが酒の席だったのでまさか真に受けるとは思わなかったのです。貴族さんに謝っといてもらえますか」

**真相カード「酒の席の冗談」を渡して下さい。**

**２－３「チェンジリング」**

・初期証拠カード「読めない本」について

他「読めないから判断のしようがないね……学者さんなら読めるかもしれないが」←学者に誘導して下さい。

・証拠カード「一部訳の台本」について

他「劇？それなら記者さんが特集記事を書いていたような……」←記者への誘導をお願いします。

・証拠カード「スポンサー」について

他「貴族さんの所へ行ったほうがいいのでは……」←貴族への誘導をお願いします。

**２－４「通り魔」**

・初期証拠カード「いきなりの襲撃」に対して

他「殴られた事件は知らない」と答える

・証言カード「ガールフレンド」に対して

その他「そうなのか。なら商人に聞いてみればいいのでは？」

・証言カード「ストーカー」に対して

他「そうなのか。なら貴族に聞いてみればいいのでは？」

**２－５「無人教室」**

・初期証拠カード「子供が来ない」に対して

商人・マスター「うちの子供は、ちゃんと子供教室にいっているというのだが・・・」

・証拠カード「竜の玉」に対して

他　　　　「竜の玉・・・？なんのことだろうかはわからないけど・・・流行ものなら

　　　　　　新聞記者に聞くのが手っ取り早いんじゃないか？」

・証拠カード　「貴族の所有物」に対して

他　　　「へぇ・・・貴族様は趣味が本当に広いんだなぁ…。

　　　　　あれ？でもなんで子供たちの間で流行っているのだろうか・・・？」

・証拠カード　「子供が来ない」「貴族の所有物」に対して

他　　　　「うーん・・・われわれには推測するしかできないからなぁ・・・

　　　　　　直接貴族様に聞くのがいいのではないだろうか？」

**２－６「笑わない数学者」**

・初期証拠カード「消えた原稿」に対して

他「風で飛んだんじゃないか？」←巡回させれば手がかりは出るので他のNPCに話を聞きに行くよう伝えて下さい。

・証拠カード「紙束を抱えた息子」に関して

マスター「この前子供たちに飛行機の折り方を教えていたんだが学者のとこの息子が小難しい数式が書かれた紙を持ってきたな、その時の紙飛行機ならここにあるから持って行っていいぞ」

**証拠カード「数式の書かれた飛行機」を渡して下さい。**

・証拠カード「数式の書かれた紙飛行機」に関して

他「学者さんに教えてあげたほうがいいんじゃないのか？」←学者への誘導

**２－７「毒殺」**

・初期証拠カード「アンダーソン氏の死」に対して

マスター「ボストン氏は、商人さんの店のお得意様らしいね」

・証拠カード「ボストン氏の買い物」に対して

残り　　「まあ、たしかに変な話だね。そう言えば、この前靴磨きが変なものを拾ったとか言っていたな」

・証拠カード「落ちていた万年筆」に対して

その他　学者ならたぶんそこに毒が入っていないか確かめてくれるだろう。

**２－８「エーシーズ・ハイ」**

・初期証拠カード「キズモノ飛行機」に対して

他「うーん……飛行機と言えば貴族様が好きでしたね。かなりの腕らしいですよ。それと、記者は飛行機関係の記事もたまに書いてるみたいですね」

・証拠カード「貴族説」に対して

他「まずは貴族に話を聞くべきでは？」

・証拠カード　「あの日は病気」に対して

マスター「あのパーティーか。そういえば堅苦しくて面倒だから出たくないってぼやいてたなあ。ひょっとすると仮病かもしれんぞ」

・証拠カード「目撃証言」に対して

他「貴族様ご本人に聞いた方がいいのでは？」

**２－９「伝説の薬剤師」**

・初期証拠カード　「伝説の薬剤師」

マスター「薬ねえ。靴磨きは何故だか薬には詳しいみたいだ。前に店で飲み過ぎて死にそうな顔してた客がいてな。そいつに靴磨きが何かの薬を飲ませてやったら、急にそいつの顔色が良くなってな」

**証拠カード「靴磨きの薬」を渡してください。**

・「星の形をしたアザ」に対して

マスター「あぁ・・・そういえば、靴磨きのあざの形は特徴的だった気がするなぁ・・・」

・「星のアザの持ち主」に対して

他「へぇ・・・そうなのかい？星のアザとは変わってるねぇ。でも、消そうとするほどの理由じゃないね？」

・「靴磨きの薬」に対して

他　「ふーん、そんなことがあったのか」

・「路地裏の治療者」「星のアザの持ち主」に対して

他「・・・うーん。靴磨きさんに直接聞いてみたらいかがでしょうか？」

**２－１０「10年目の浮気？」**

・初期証拠カード「トマスの浮気疑惑」について

マスター「トマスか。しばらく来てないな。しかし浮気ねえ……あいつがそんなことするとも思えんが。この前会った時は、結婚記念日に妻に贈るものについて相談されたくらいだし。途中で何やら思いついた様に見えたが、何を思いついたかは教えてくれなかったな」

・証拠カード「最近あってない」について

他　　「プレゼント探しならば商人のところでは？」

・証拠カード「引退した指輪職人」について

その他「あの老人ですか……確か実家が記者の家の近くだったので、そっちに帰ったのかもしれません」

・証拠カード「職人の今」について

その他「商人に頼んで下さい」

**２－１１「届かなかった贈り物」**

・初期証拠カード「紅白の箱」に対して

　他　　「紅白の箱？いや、知らないが・・・。」

・証拠カード「中身は女神像」に対して

他「女神像か・・・。どんな女神像かわからないと何とも言えないなぁ。」

・証拠カード「ヴィーナス像」に対して

　他「ヴィーナス像？いや、そんなものは見ていないが・・・」

・証拠カード「裸体像」に対して。

　他「裸体像・・・？そんなものはしらないなぁ。」

・証拠カード「ツケのカタ」に対して

　マスター「ああ。あったねぇ。いや、貴族様との賭けに使って、すぐ手放すことになっちゃったから、どんなもんだったかは覚えてないんだけどね。貴族様が持ってるはずだよ」

**証拠カード「ギャンブルのベット」を渡してください。**

・証拠カード「ギャンブルのベット」に対して

　他　「ああ。マスターと貴族さんはよくギャンブルしてるからね。」

**２－１２「消えたネクタイ」**

・初期証拠カード「ネクタイは商人のもとへ」に対して

マスター「そういえば。記者さんが前につけていたネクタイと同じものを最近学者さんがつけているな。何か関係があるのではないかな？」

**証拠カード「マスターの証言」を渡してください。**

・証拠カード「マスターの証言」に対して

他「へえ。なるほど。・・それが私に関係あるとは思えないのだが？」

・アイテムカード「ネクタイと領収書」に対して

他「特に何もわからないなぁ・・・？」

・証拠カード「郵便の行方？」に対して

他　「記者からの郵便？いや、私のところには来ていないよ。」

・証拠カード「ネクタイと領収証」「郵便の行方」に対して

他　「特に何もわからないなぁ・・・？」

**２－１３「幽霊屋敷」**

・初期証拠カード「悪霊の噂」について

マスター「あの屋敷な、依頼主がこの前「良い物件が破格値で買えた」と酔っ払いながら言いふらしていたが悪霊が出るなんて噂流されちゃ値段下げないと買い手もつかないだろうよ」

・証拠カード「買い叩き」について

他「詳しいことは知らないな、記者ならそういうことに詳しいんじゃないか」←事情通の記者に誘導するような発言をお願いします。

・証拠カード「円満な取引」について

全員「円満な取引ならそれでいいじゃないか」

（これ以上この手がかりからは情報が手にはいらないことを伝えて下さい）

・証拠カード「夜中の物音」について

他「誰も居ないのに物音がするなんてなんだか薄気味悪いな」←次に話を聞くNPCを言っているので誘導はなくて良いと思います。

・証拠カード「暗闇の中で子供」について

他「ちょっとわからないな、商人さんのところは確か子供が居たはずだから詳しいことを知っているかもしれないね」←商人への誘導をお願いします。

**２－１４「くさきものども」**

・初期証拠カード　「謎の集団」について

他「うーん・・こころあたりはないが・・流行には新聞記者が、裏路地には靴磨きが詳しいよ」

・証拠カード「腐った豆」について

マスター「あ、それは多分納豆って料理ですね。東方では一般的な物らしいです。貴族様が言ってましたが」

・証拠カード「黒覆面の男」について

マスター「黒覆面の男……？私のお客様にはいませんね。他の客が怖がりますし」

・証拠カード「料理依頼」について

マスター「ああ。はい。前に貴族様がウチで飲まれたときに、食べてみたいなぁ。とおっしゃっていたので。しかし、とはいえ……私もあの匂いには……とてもとても」

・証拠カード「酒場から出現」について

マスター「え！？……いや、なんでもないんです！！」

　　　　　解りやすく狼狽えていただけると嬉しいです。

・証拠カード「料理依頼」「酒場から出現」について

マスター「ええ。多分推測どおりにそれは私です。製法を研究中で味見をお願いしてたんですよ。」

**真相カード「覆面のわけ」を渡して下さい。**

**２－１５「紫の薔薇」**

・初期証拠カード「紫の薔薇の君について」

マスター「ああ、うちのお客さんの話題も、舞台の近い日は彼女のことばかりだ。ありふれた噂ばかりだから、探偵さんのお役にたちそうにないがね。紫の薔薇？そのことならたぶん貴族様が知っているはずだ。彼のもっている庭園には、珍しい花が咲いていたはずだからね。もしかしたらあったかもしれない」

**証拠カード「貴族の庭園」を渡す**

・証拠カード「女優の出身」について

他「えっ？あの女優のスキャンダル？・・・なんだただの噂かい」

・証拠カード「貴族の庭園」について

他「知らないなあ…」

・証拠カード「庭仕事の道具」について

他　　　「靴磨き本人に聞いてみてはどうだろうか？」

・全ての証言カードを持って行く

**２－１６「少年の一目惚れ」**

・初期証拠カード「髪飾り」について

マスター「その髪飾りならとある服装展示会の後から急に流行りだした気がするな」

**証拠カード「きっかけは服装展示会」を渡して下さい**。

・アイテムカード「高価な落し物」について

他「金の刺繍が入っているしきっと高いものだろう、貴族さんならなにか知っているかもね」（貴族に行くよう誘導して下さい）

・証拠カード「持ち主は貴族の娘」について

他「貰ったものをすぐになくすなんておっちょこちょいだね」←この証拠カードでは次の手がかりが出ないことを伝えてあげてください、ミスリードです。

・証拠カード「きっかけは服装展示会」について

他「詳しいことは知らないな、新聞に載っていたから記者さんなら知っているんじゃないか」

・証拠カード「販売は五日前から」「精巧な人形」の二枚を出された場合

他「それは学者さんに伝えてあげたほうがいいんじゃないか？」

**２－１７「盗まれた首飾りを取り戻して」**

・初期証拠カード「盗まれた首飾り」に対して

マスター「首飾りか・・・。うーん、そういえば貴族様が買ったとか、いってたなぁ・・・・」

・アイテムカード「首飾りの鑑定書」に対して

他　「おお、首飾りは見つかったのかい。よかったじゃないか」

・証拠カード「問屋がらみの犯罪」に対して

他「あぁ、そんな話もあったなぁ。私たちには関係ないだろうけれども。」

・証拠カード「もしかして偽造？」に対して

他「えぇー！！鑑定書は偽造だったのかい？たまげたなぁ。学者様がいうならそうなんだろうけど」

・証拠カード「もしかして偽造？」「問屋がらみの犯罪」に関して

他「ふーむ、装飾品のロンダリングねぇ。大変なんだなぁ……で。私に関係あるのかい？」

・証拠カード「鑑定書は偽造」に対して

他「貴族様の持ち物が盗品だなんて・・・早く教えてあげたら？」

**２－１８「行方不明の看板娘」**

・初期証拠カード「酒場のローラ」に対して

・証拠カード「貴族のプロポーズ」に対して

他「ああ……ごく最近の話だよ。2日くらい返事を伸ばして、結局貴族様はフラれたらしい。まぁ、貴族様からプロポーズなんてされたら町娘はビビっちまうよなぁ……OKするならともかく、断るとなると、相手は権力者。ちびるね」

・「赤毛のローラ」に対して

他「赤毛ねえ？そう言えば、記者が赤毛がどうこうという話をしてたような……詳しくは覚えてないが」

・「旅支度」に対して

マスター「ええ？ローラが旅支度をしていたって？知らなかった……」

・証拠カード「ジャックと馬車」に対して

マスター「ああ……ジャックか。あいつは確かローラの彼氏だったな。前に店までローラを迎えに来たので知ったんだったか」

**証拠カード「ジャックとローラ」を渡してください。**

・証拠カード「ジャックとローラ」に対して

他「へえ。ローラの彼氏はジャックだったのか。そいつはしらなかった」

・証拠カード「旅支度」「貴族のプロポーズ」「ジャックとローラ」に対して

他　　「ああ……これは。駆け落ちかな……なんにせよ、学者先生に聞くのがいいだろう」

**２－１９「失われた物語」**

・初期証拠カード「本の紛失」に対して

マスター「学者様も災難だったね。借金までして買った本だったそうじゃないか。まあそういう品は他にもたくさんあって、そろそろ借金で首が回らなくなってるらしいがね」

**証拠カード「学者の借金」を渡して下さい。**

・証拠カード「アリバイ」に対して

マスター「ああ、あの時は会場にいたよ。パーティーの準備のために」

・証拠カード「学者の借金」に対して

マスター「いや、俺も詳しいことは知らないんだ」

・証拠カード「持ち物検査」に対して

他「記者の言うとおりですね。私の知る限り、皆検査には協力的でしたよ」

・証拠カード「馬車の故障」に対して

その他　「へえ、そんなことがあったんですか？詳しい話を聞きたかったら靴磨きか学者に聞くべきでしょうね」

・証拠カード「学者が馬車を？」に対して

他　　　「それはちょっと変だね。商人の知り合いの会社のものだというなら、商人に聞くべきだろう」

・証拠カード「細工の痕跡」、「学者の借金」に対して

その他　「そこまで調べが付いているなら、直接学者に問いただすべきでしょう」

**３－１「表紙のない本」**

1. 「あ、この本は……！いや、なんでもないよ」
2. 「やはり学者先生はそういうのか、だがなあ……いや、何でもない」

③（貴族のところへ誘導）

④「初耳だな」

⑤「ああ、そうだ。もしかして君たちもこの本について探しているのか？　これは死神の書といって、雑に扱ったり大っぴらにしたりすると、死神に殺される呪いの本の第一巻らしいんだ。最終巻までセットにして同時に焼けばいいらしいんだけど、私には他に何冊あるかも分からなくて、困っていたんだよ。私もオカルトを信じきっているわけではないけど、少し怖くて処分できずにいたんだ」

**→⑦「一組の呪いの書」**

⑥「学者さんがねえ、私は何もしらないよ」

⑧「そうか……でも言い伝えを信じている人なら、絶対に持ちっぱなしにしてしまうと思うんだがな」

⑨「なるほど、ではあと一冊ということになるな」

⑩「私も心配だよ」

⑪⑫「号外なんて出して、大丈夫なのだろうか？　特に貴族様の精神状況が心配だ」

⑬「そうか、安心したよ。貴族様にもそれを伝えてきたらどうだい」

**３－２「読めない手紙」**

・初期証拠カード「友人について」

マスター「あの人ですか…、最後にお会いしたのは…、そうそうお客様として一人で飲みに来られてましたね。酔いつぶれるてしまわれて、看板の時間になってもなかなか起きなくて苦労しました。あれはたしか、十日前のことです。彼、何か寝言で、こんなはずではなかった、こうなったからには探偵に頼んででも証拠を掴んでやる、と呟いてましたが何かあったのですかね？」

**→証拠カード「予定外の出来事」**

・証拠カード「鉱山の開発権入札」に対して

マスター「そこの会社はあそこの商人の従兄弟が経営している会社だよ。まあ名前が違うからわかりにくいとは思うし、古くからこの街にいる者以外は知らないだろうけどね。」

**→証拠カード「商人の従兄弟」**

・証拠カード「商人の従兄弟」に対して

他「へぇ、そうだったのか。商人関係の話なら学者にも聞いてみたらどうだい？

　　あの人経済学にも詳しいようだし。」

・証拠カード「臨時休業」に対して

マスター「ああ、その日ですか？そう言えば、商人が珍しく酒を買いに来ましてね。彼はあまり酒を飲まないのですが、なんでも酒好きのお客様と飲むからアルコール度数の高いのを適当に売ってくれって。お客様の好みはと聞いたのですが何でも良いと言われまして、酒好きにしては変わっているなと思ったのですよ」

**→証拠カード「酒の購入」**

・最低限の証拠カード「金の無心」「商人の融資」＋「臨時休業」「新月」「酒の購入」（事故前の行動）

他「何か商人の発言が事実と違ったり、事故の日も怪しい行動をしていたり、

　　これは直接商人に問いただすべきでは？」

**３－３「謎の襲撃者」**

1：「ダグラスねえ。仕事に関しちゃ有能で公正だって評判だが、私生活に関しちゃ女好きでだらしないとか、あまりいい話を聞かないね」

2：「学者に行け」

3や6：「靴磨きとねえ……いや、なんでもない。忘れてくれ」

4：「最近頻繁に来なくなったから、女でもできたのかと思ってたが、当たりみたいだな」

5：「そういえばそんな噂は聞いたことがあるな。ちなみに奥さんはダグラスの同窓で、つまり貴族とも同窓だって話だぜ」

3、4、6：「実は靴磨きは貴族様に借金をしててな。それで頭が上がらんのだよ。本人は隠したがってるみたいだったから、今までは黙ってたんだがねえ」

**7番「借金」を渡して下さい。**

8：「貴族に行け」

9：「犯人は手袋でもしてたのかねえ？」

10：「これが何か？」

11：「そういうことか。で、写真は見せてくれないのかい？」

12：「これは学者先生の奥さんだ。数年前から別居中で、直に何度も会ったことがあるのは俺くらいだろうから、他の連中は知らないかもしれんな。そう言えばこの前学者がこの店に来た時、珍しく酔いつぶれて奥さんの名前を言い続けてたんだが、もしかするとあいつはこれを知ってたのかもしれないな。そうなると、学者も容疑者入りってことかねえ？」

**13番「学者の妻」を渡して下さい。**

13と2or13と10：「となると、学者以外のところで調べてもらったほうがいいだろうな。貴族様にはそういう知り合いがいた気がする」

14or17：「学者に行け」

15：「学者があなたに調査を依頼された時に拭きとったんだと仮定すると、それまでは指紋が残っていたわけだよな」

灰皿以外にもダグラスの家には指紋があるんじゃないの？と突っ込まれた場合は、貴族に誘導して下さい。